



< 1.タイトル >

氷からの手紙をつくろう! 」

< 2.サブタイトル >

ホームページ作成ソフトを活用した双方向性のある学習活動

< 3-1.校種 ,教科 ,学年 >

小学校・図工・6年

< 3-2.実践者 >

静岡県浜北市立伎倍小学校 ・生熊 周

< 4-1.コンピュータ活用のアイデア : 90字以内 >

・工具の使い方や制作ヒントをHTML化することで、いつでも閲覧することができる。  
制作途中の感想や疑問をHTML化することで、多くの友達と情報交換することができる。

< 4-2.コンピュータ活用のメリット: 100字以内 >

・コンピュータから必要時に必要量だけ情報を取り出すことで、自分のペースとアイデアで、生き生きと活動できた。・活動の記録や感想  
疑問をイントラ上で共有することで、グループ内の協調性、自己評価の信頼性等が高まった。

< 5.単元 (題材)・項目 >

表したいものを立体に表す  
氷からの手紙をつくろう! 」

< 6.対応する学習指導要領の内容 >

表現領域

(2)見たこと、感じたこと、想像したこと、伝えたいことを絵や立体に表現したり、工作に表したりするようにする。

(イ)表したいことに合わせて、全学年までに経験した材料や用具、自分が選んだ材料、糸のこぎりなどの特徴を生かして使い、表現に適した方法などを組み合わせながら、絵や立体に表現したり、交際に表したりすること。



### < 7.指導目標 >

水の特性を知り,素材に適した加工方法を選んで,水の流れる様子を自分らしくデザインすることができる。

### < 8.コンピュータ活用のねらい >

イントラネットから,水資源の大切さ,自分のイメージする水に合う素材に適した加工方法等の『個に即した情報』を得ることで,水の流れる様子を自分らしくデザインさせたいと考えた。また,自分たちの得た情報や感想 制作評価等をイントラに掲載することで,情報を活用した主体的な学習が促進できるようにした。

### < 9.実践のポイント >

自分の表現したい「水」をイメージする

まずはじめに,川を中心とした自然環境の映像や水質汚濁に関連した資料から,水の特性や水資源の重要性に気づき,そこから,「表現したい(だれかに伝えたい)水のイメージ」をつかむ。この際,書籍資料ばかりでなく,校内イントラ上のリンク集から,インターネットのホームページを利用することで,効果的に資料収集を行えるようにする。



各自が持ち寄ったワークシートを並べて相談

イントラネット上 から,目的に応じた情報を得る

次はいよいよ制作にとりかかる。その際,子どもたちが表したいイメージがそれぞれ異なるため,必要な材料の加工方法も違ってくる。そこで,それぞれの要望に随時答えられるよう,工作用具の使い方・活動のヒント等の制作情報をイントラに載せて,いつでも見ることができるようにした。この内容は,前時で子どもたちの感想や質問に答える形で順次更新していく。



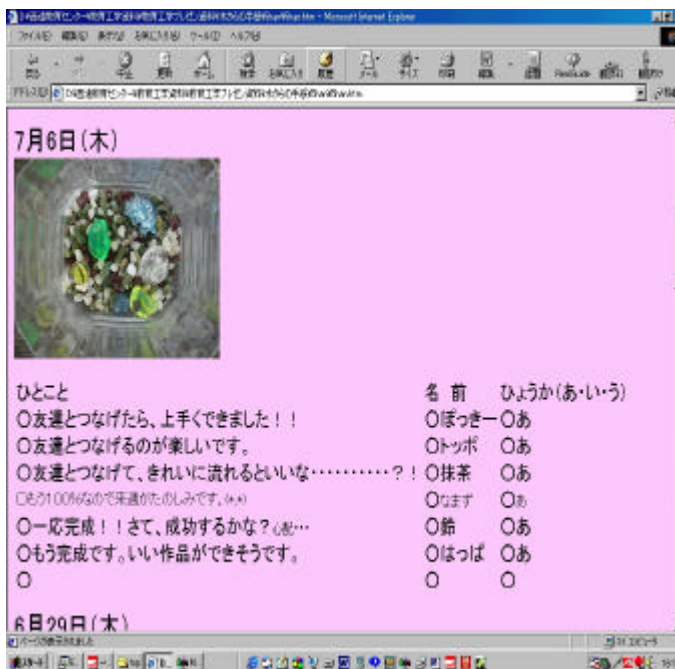
#### イントラネットに情報を発信する

子どもたちは,イントラ上に,制作グループごとのページを運営している。これは制作過程や作品・グループメンバー等を紹介するページで,あらかじめメインのページからリンクがはられている。具体的内容は,制作に関する感想・意見・質問,教師に対する要望,作品や活動の様子を撮影したデジカメの画像,自己評価等である。制作活動途中の適当な時間に,それぞれホームページ作成ソフトを使って,そのグループページを更新していく。

水からの手紙イントラトップページ



これら一連の活動によって、情報の共有化・双方化が成立していった。つまり子どもたちは、水に関する資料や他のグループの進捗状況等の情報を収集するだけでなく、自らも発信する機会を得たのだ。それまでは「ともするといかに能率的に、自分に必要な情報を入手するか」といった一方向的な段階に「どうしたら相手に分かるページを作成できるか。」といった加わり、双方向での情報のやり取りが可能になっていった。



グループのページ

## < 10.子どもたちの反応 >

### 多面的な情報収集

子どもたちは書籍資料ばかりでなく、インターネ

ットを駆使して、水資源に関する様々な情報を入手していた。例えば公共広告機構のホームページを利用して、到底現在では入手できない、数年前の水環境啓発ポスターを閲覧したり、当時のコマーシャル(動画)を入手したりすることができた。

<http://www.inter.co.jp/ac/pages/campaign/japanus/water/water.html> )

イントラ上から、目的に応じた情報を入手する

「ペットボトルを半分に切って水を流したい。」木を切って水路の台にしたい。」等、子どもたちの要望は様々であり、各自の必要に応じてイントラのページを開いて制作のヒントにしていた。活動につまずいたり迷ったりしたときに活用している様子だった。イントラには文字情報だけでなく、数十秒間の動画ファイルも収められているため、分かりやすいと評判だった。



友達と書き込みをする

### 友達の意見を互いに共有する

活動の様子をデジカメで撮影したり文章で表したりしてコンピュータ上に綴ることで、情報の共有化が促進され、ポートフォリオ的な履歴が作成されていった。自分が書き上げたページが、リアルタイムで見られる。しかもそれが校内のコンピュータ全てで可能になる経験に、子どもたちは大喜びだった。「新聞記事を書いている記者みたい。」「番組を作っているみたい。」等といった感想が聞かれた。子どもたちは、これらの経験を通して情報を収集するだけでなく「発信することの喜び」を感じていたようだった。